

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-297826

(P2005-297826A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005. 10. 27)

(51) Int.Cl.⁷

B60R 7/04

F I

B60R 7/04

C

テーマコード (参考)

3D022

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2004-118312 (P2004-118312)

(22) 出願日 平成16年4月13日 (2004. 4. 13)

(71) 出願人 000119232

株式会社イノアックコーポレーション

愛知県名古屋市中村区名駅南2丁目13番
4号

(74) 代理人 100076048

弁理士 山本 喜幾

(72) 発明者 横田 佳弘

愛知県安城市今池町3丁目1番36号 株
式会社イノアックコーポレーション安城事
業所内Fターム(参考) 3D022 CA07 CB05 CC17 CD02 CD03
CD17

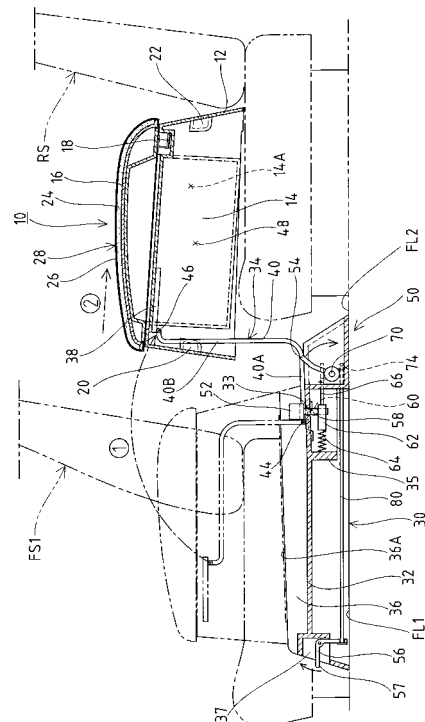
(54) 【発明の名称】 コンソールボックス

(57) 【要約】

【課題】 前部座席と後部座席間でのウォークスルーを可能とする一方、後部座席の乗員が好適に使用し得るようにする。

【解決手段】 コンソールボックス10は、前部座席FS1(FS2)間のフロアFL1に設置された支持台32に枢着される支持部材34に枢支されており、この支持部材34の姿勢変位のもとに、前部座席FS1(FS2)側の第1位置と後部座席RS側の第2位置との間をスウィング移動し得る。そしてコンソールボックス10は、第1位置および第2位置の夫々において、支持台32に配設したロック機構50により固定保持される。このロック機構50の操作は、後部座席RS側から操作可能な操作ペダル54または前部座席FS1(FS2)側から操作可能な操作レバー56により行なわれる。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前部座席(FS1,FS2)および後部座席(RS/RS1,RS2)を有する車両の乗員室内において、常には前記前部座席(FS1,FS2)の間のフロア(FL1)に設置されるコンソールボックス(10)であって、

前記コンソールボックス(10)は、

一端が前記フロア(FL1)側に枢着されると共に、他端が該コンソールボックス(10)に枢支される支持部材(34)で支持され、

前記支持部材(34)の姿勢変位のもとに、前記前部座席(FS1,FS2)側の第1位置と前記後部座席(RS/RS1,RS2)側の第2位置との間を移動し得るよう構成したことを特徴とするコンソールボックス。

10

【請求項 2】

前記第2位置へ移動したコンソールボックス(10)は、横長に設置された前記後部座席(RS)の座面上に保持される請求項1記載のコンソールボックス。

【請求項 3】

前記第2位置へ移動したコンソールボックス(10)は、左右に離間して設置された前記後部座席(RS1,RS2)間のフロア(FL3)上に保持される請求項1記載のコンソールボックス。

【請求項 4】

前記支持部材(34)は、前記フロア(FL1)に設置されて第1位置に変位した前記コンソールボックス(10)を載置する支持台(32)に枢支され、この支持台(32)と共にボックス支持機構(30)を構成する請求項1～3の何れかに記載のコンソールボックス。

20

【請求項 5】

前記支持台(32)には、前記第1位置および第2位置の夫々に前記コンソールボックス(10)を固定保持するロック機構(50)が配設されている請求項4記載のコンソールボックス。

【請求項 6】

前記ロック機構(50)は、前記コンソールボックス(10)が前記第1位置または第2位置に停止した夫々の状態において前記支持部材(34)へ係合する規制部材(52)と、

前記支持台(32)の所要位置に配設されて前記規制部材(52)に連繋し、所要の操作により前記支持部材(34)に対する該規制部材(52)の係合を解除する操作部材(54,56)とからなる請求項5記載のコンソールボックス。

30

【請求項 7】

前記操作部材(54)は、前記支持台(32)において、前記後部座席(RS/RS1,RS2)側からの操作が可能な位置に配設された操作ペダルである請求項6記載のコンソールボックス。

【請求項 8】

前記操作部材(56)は、前記支持台(32)において、前記前部座席(FS1,FS2)側からの操作が可能な位置に配設された操作レバーである請求項6または7記載のコンソールボックス。

【請求項 9】

前記コンソールボックス(10)の上面に、アームレスト(28)を兼用するコンソールリッド(16)が配設されている請求項1～8の何れかに記載のコンソールボックス。

40

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、コンソールボックスに関し、更に詳細には、前部座席および後部座席を有する車両の乗員室内において、常には前記前部座席の間のフロアに設置されるコンソールボックスに関するものである。

【背景技術】

【0002】

例えば、ミニバンやワンボックス等の多人数乗車を可能にした乗用車では、該車両の乗員室の室内高を大きく設定して、この乗員室内での乗員の移動を容易に行ない得るよう

50

なっている。また、左右に離間した前部座席(運転席、助手席)と、この前部座席の後方に設置した後部座席との間でも乗員の移動を可能とするため(一般的に「ウォークスルー」と称する)、従前では、前部座席の間のフロアに設置されていたコンソールボックスを非装備とするタイプが一般的となっていた。しかしながらコンソールボックスには、前部座席を利用する乗員の所持品や種々小間物を収容し得る収納室が画成されていたため、このコンソールボックスを装備しない乗用車の場合は前部座席周辺の収納スペース不足が発生する問題が生じていた。

【0003】

そこで、前述した収納スペース不足を解消するため、可動タイプのコンソールボックスを前部座席間のフロアへ設置するようにして、乗員のウォークスルーに際して該コンソールボックスを前部座席間から退避させ得るようにした提案がなされている。このような可動タイプのコンソールボックスに関しては、例えば特許文献1および特許文献2等の開示されている。特許文献1の開示のコンソールボックスは、前部座席間と後部座席との間に乗員室の前後方向へ敷設したガイドレールに沿って移動可能となっており、後部座席の座面中央部を上方へ回動させることで画成される座席空間へ該コンソールボックスを収容させることで、前部座席と後部座席との間のウォークスルーを可能としたものである。一方、特許文献2の開示のコンソールボックスは、前後へのスライド変位および側方への回動変位が可能となっており、このコンソールボックスを前部座席と後部座席との間へ退避させることで、前部座席と後部座席との間のウォークスルーを可能としたものである。

10

【特許文献1】特開平11-321465号公報

20

【特許文献2】特開平11-157391号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで、特許文献1の開示のコンソールボックスでは、後部座席の座面中央部を回動させた状態でなければ、該コンソールボックスを後方側へ移動させることが困難である。従って、例えば前部座席の乗員が後部座席へ移動しようとする場合、この前部座席から該後部座席の座面中央部を回動させることが殆ど不可能であるから、後部座席に乗員がいな
い場合にはウォークスルーに十分な位置までコンソールボックスを後方へ移動させることが困難となり、ウォークスルーが困難または行ない難い欠点を内在している。また、後部座席の座面中央部を回動可能な構造とする必要があるから、該後部座席の構造が複雑とな
ってコストアップを招来する問題もある。更には、乗員が移動するフロア上にガイドレールが敷設されているため、このガイドレール内へ塵埃、ゴミ、土または砂等が入り込み易く、コンソールボックスのスライド不良を招来する欠点等も指摘される。

30

【0005】

一方、特許文献2の開示のコンソールボックスでは、後部座席の運転席後方に乗員が着座している場合にはコンソールボックスの側方への回動変位が不可能となり、後部座席の乗員の有無によってはウォークスルーが実施できない欠点を内在している。また、前部座席(運転席)と後部座席との間に退避させてある場合、前部座席のシートバックのリクライニング機能が使用できない問題もある。更には、後部座席の助手席後方に着座している乗員は、当該のコンソールボックスを殆ど使用できない不便等も指摘される。

40

【0006】

そこで本発明では、後部座席側へ変位させた際に、前部座席と後部座席間でのウォークスルーを可能とする一方、後部座席の乗員が好適に使用し得るようにしたコンソールボックスを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

前記課題を解決し、所期の目的を達成するため本発明は、

前部座席および後部座席を有する車両の乗員室内において、常には前記前部座席の間のフロアに設置されるコンソールボックスであって、

50

前記コンソールボックスは、

一端が前記フロア側に枢着されると共に、他端が該コンソールボックスに枢支される支持部材で支持され、

前記支持部材の姿勢変位のもとに、前記前部座席側の第1位置と前記後部座席側の第2位置との間を移動し得るよう構成したことを特徴とする。

【発明の効果】

【0008】

本発明に係るコンソールボックスによれば、後部座席の乗員がコンソールボックスを第2位置へ移動させ得ることは勿論、前部座席の乗員が該コンソールボックスを第2位置へ移動させることも可能であるから、後部座席の乗員が前部座席へ移動したり前部座席の乗員が後部座席へ移動することが可能となる利点がある。そして、第2位置へ固定保持されたコンソールボックスは、後部座席の座面の左右中央に位置するため、この後部座席の左右両側に着座した乗員が好適に使用可能となる利点もある。またコンソールボックスは、第1位置および第2位置の何れに位置していてもロック機構により好適な固定保持が図られるため、急発進または急ブレーキにより移動することが防止される。更にコンソールボックスは、後部座席の構造を変更する必要がないため、この後部座席の構造変更に伴うコストアップを招来することがない等の有益な効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

次に、本発明に係るコンソールボックスにつき、最適な実施例を挙げて、添付図面を参照しながら以下説明する。本願のコンソールボックスは、前部座席および後部座席を有する車両の乗員室内において、常には相互に離間して設置された前記前部座席(運転席、助手席)の間のフロアに設置され、必要に応じて後部座席側へ変位可能としたものである。

【実施例】

【0010】

図1は、好適実施例に係るコンソールボックスの使用状態を例示した説明斜視図であって、(a)は前部座席間のフロアに設置した第1位置での使用状態を示し、(b)は後部座席の座面上に保持した第2位置での使用状態を示している。また図2は、前部座席間のフロアに設置した第1位置での使用状態で示したコンソールボックスの概略断面図であり、図3は、後部座席の座面上に保持した第2位置での使用状態で示したコンソールボックスの概略断面図である。更に図4(a)は、本実施例のコンソールボックスの外観を概略的に示した平面図であり、図4(b)は、その側面図である。なお本実施例では、横長タイプ(ベンチタイプ)の後部座席を装備した車両に実施した場合を例示し、よって該後部座席の座面上における左右中央部が第2位置に設定されている。

【0011】

本実施例のコンソールボックス10は、図1に例示したように、後述のボックス支持機構30に支持された状態で前部座席FS1,FS2間のフロアFL1へ設置され、常にはこのボックス支持機構30に支持されたもとで、前部座席FS1,FS2側の第1位置および後部座席RS側の第2位置との間を移動し得るようになっている。すなわちコンソールボックス10は、図2および図3に例示したように、一端が前部座席FS1,FS2の間のフロアFL1側に枢支されると共に、他端が該コンソールボックス10に枢着される前述のボックス支持機構30を構成する支持部材34で支持され、この支持部材34の姿勢変位(回動変位)のもとに、前部座席FS1,FS2側の第1位置と後部座席RS側の第2位置との間をスウィング移動し得るよう構成されている。これにより、コンソールボックス10を第2位置へ変位させることで、フロアFL1,FL2を介して乗員が前部座席FS1,FS2と後部座席RSとの間を移動(ウォークスルー)し得るようになると共に、後部座席RSの両側に着座している乗員が当該コンソールボックス10を使用し得るよう構成したものである。

【0012】

ここで、前述したコンソールボックス10は、図4～図6に例示するように、例えばポ

10

20

30

40

50

リプロピレン(P P)等の合成樹脂素材からインジェクション成形されたコンソール本体 1 2 と、同じくポリプロピレン等の合成樹脂素材から有底矩形状に成形され、コンソール本体 1 2 に対して上方から嵌合装着される収容箱体 1 4 と、コンソール本体 1 2 の上部後方にヒンジ部材 1 8 を介して枢支され、収容箱体 1 4 により画成された収容部 1 4 A を開放可能に閉成するコンソールリッド 1 6 とから基本的に構成されている。コンソール本体 1 2 は、その前面および後面に指先を掛けるための取手部 2 0 , 2 2 が形成されている一方、必要に応じて外面の全体または部分的に、シボ模様を形成したり別途の表皮材を貼込んで質感向上が図られることもある。またコンソールリッド 1 6 は、その上面に発泡体 2 4 および表皮材 2 6 が配設されていて、アームレスト 2 8 として機能するようになっている。なおコンソールボックス 1 0 自体は、従来のものと大きな差異はないため、詳細な説明は省略する。 10

【0013】

ボックス支持機構 3 0 は、前部座席 F S 1 , F S 2 の間のフロア F L 1 に設置された支持台 3 2 と、この支持台 3 2 に枢支された前述の支持部材 3 4 とから構成されている。支持台 3 2 は、その平面視での形状・サイズがコンソールボックス 1 0 のコンソール本体 1 2 より一回り大きく設定された逆バケット形状を呈しており、その上面における左右両側に、第 1 位置へ到来した当該のコンソールボックス 1 0 を当て受ける載置面 3 6 A を形成した載置部 3 6 , 3 6 が突設されている。そして、支持台 3 2 の後部には後述するロック機構 5 0 が配設されていると共に、当該支持台 3 2 の後部および前部には後述する操作部材 5 4 , 5 6 が配設されている。 20

【0014】

支持部材 3 4 は、図 5 および図 6 等に例示したように、第 1 支持杆部 4 0 A および第 2 支持杆部 4 0 B が略直角に連設された側面略 L 字形を呈する 2 本の支持体 4 0 , 4 0 と、これら支持体 4 0 , 4 0 を所要幅に連結する連結杆 4 2 , 4 2 とから構成されている。そして、各々の支持体 4 0 , 4 0 の一端、すなわち第 1 支持杆部 4 0 A の端部が、第 1 ヒンジ部材 4 4 を利用して前述の支持台 3 2 の上面に枢着されており、これにより支持部材 3 4 は、乗員室の前後方向(図 2 における左右方向)への回動が可能となっている。また、各々の支持体 4 0 , 4 0 の他端、すなわち第 2 支持杆部 4 0 B の端部が、第 2 ヒンジ部材 4 6 を利用してコンソール本体 1 2 における天面裏側に枢支されている。なお、コンソール本体 1 2 と収容箱体 1 4 との間には所要幅の空間 4 8 が画成されており、各支持体 4 0 , 4 0 の第 2 支持杆部 4 0 B が、この空間 4 8 を介して対応の第 2 ヒンジ部材 4 6 , 4 6 へ臨むようになる。 30

【0015】

また、前述した各々の第 2 ヒンジ部材 4 6 , 4 6 は、コンソール本体 1 2 の天面裏側において該コンソール本体 1 2 の前後方向へ延在するよう配設した所要長のレール部材 3 8 , 3 8 にスライド可能に配設されている。従ってコンソールボックス 1 0 は、前述した支持部材 3 4 に対して回動変位およびスライド変位が可能となっており、この支持部材 3 4 の姿勢変位に伴って前述した第 1 位置および第 2 位置の間でのスウィング変位が可能となっている。なお図 2 および図 3 に例示したように、コンソールボックス 1 0 が支持台 3 2 の載置面 3 6 A , 3 6 A に保持されて第 1 位置に到来している場合の支持部材 3 4 の姿勢は、第 1 支持杆部 4 0 A が略垂直状態で第 2 支持杆部 4 0 B が略水平状態となっており、また当該のコンソールボックス 1 0 が後部座席 R S の座面上に保持された第 2 位置に到来している場合の支持部材 3 4 の姿勢は、第 1 支持杆部 4 0 A が略水平状態で第 2 支持杆部 4 0 B が略垂直状態となっており、該支持部材 3 4 は約 9 0 度回動するようになる。 40

【0016】

前述したロック機構 5 0 は、第 1 位置および第 2 位置に到来したコンソールボックス 1 0 を、支持部材 3 4 の回動変位を規制することで固定保持させるためのものであって、図 6 および図 7 に例示するように、コンソールボックス 1 0 が第 1 位置または第 2 位置に停止した夫々の状態において、支持部材 3 4 における各支持体 4 0 , 4 0 の第 1 支持杆部 4 0 A へ係合する一対の規制部材 5 2 , 5 2 と、支持台 3 2 の所要位置に配設されて各規制 50

部材 5 2, 5 2 に連繋され、所要の操作により各支持体 4 0, 4 0 に対する該規制部材 5 2, 5 2 の係合を解除する操作部材 5 4, 5 6 とから構成されている。ここで、一方の操作部材 5 4 は、後部座席 R S 側からの操作が可能のように支持台 3 2 の後側に配設されたペダル形態の操作ペダルであり、他方の操作部材 5 6 は、前部座席 F S 1, F S 2 側からの操作が可能のように支持台 3 2 の前側に配設されたレバー形態の操作レバーである。これによりコンソールボックス 1 0 は、第 1 位置または第 2 位置に到来すると、支持部材 3 4 に係合した規制部材 5 2, 5 2 により安定的に固定保持されると共に、操作ペダル 5 4 または操作レバー 5 6 を操作して支持部材 3 4 に対する規制部材 5 2, 5 2 の係合を解除することで、第 1 位置から第 2 位置への変位および第 2 位置から第 1 位置への変位が許容される。

10

【0017】

各々の規制部材 5 2 は、支持台 3 2 に形成した案内孔 3 3, 3 3 に沿って該支持台 3 2 の幅方向(図 6 の左右方向)へスライド可能に支持された作動部材 5 8, 5 8 に取着され、これら作動部材 5 8, 5 8 の移動に伴って支持部材 3 4 の支持体 4 0, 4 0 に対する係脱が図られるようになっている。各作動部材 5 8 は、案内孔 3 3, 3 3 を挿通して支持台 3 2 の上面へ延出し前述の規制部材 5 2 を支持する本体部 5 8 A と、本体部 5 8 A の端縁部に延設されて後述のスライド部材 6 2 に係止される係止部 5 8 B とを有しており、支持台 3 2 の内部に形成された支持壁 3 5 の壁面に連結されたコイルスプリング 6 0, 6 0 に連結されている。これにより、常には相互に離間する方向へ引張り付勢され、支持部材 3 4 における各支持体 4 0, 4 0 の第 1 支持杆部 4 0 A に規制部材 5 2 を係合した状態に保持される(図 6、図 7)。

20

【0018】

台形枠形状を呈するスライド部材 6 2 は、図 7 (a), (b) に例示したように、各図の左側が幅狭、右側が幅広となる向きで支持台 3 2 の内側に配設されて、前述した支持壁 3 5 の壁面に連結されたコイルスプリング 6 4 に連結されており、常には図 7 (a) の左方向へ引張り付勢されている。そして、スライド部材 6 2 がコイルスプリング 6 4 の引張り付勢により図 7 (a), (b) に図示した第 1 停止位置に停止した状態において、前述した各作動部材 5 8, 5 8 の係止部 5 8 B が、当該スライド部材 6 2 の最大幅部に係止するようになっている。また、スライド部材 6 2 が前述した第 1 停止位置から図の右方向へ移動すると、係止部 5 8 B が該スライド部材 6 2 の傾斜部に沿って摺動することで各作動部材 5 8, 5 8 は相互に近接する方向へスライド移動するようになり、図 8 (a), (b) に図示した第 2 停止位置まで移動した際には係止部 5 8 B が該スライド部材 6 2 の最小幅部に到来するので、支持部材 3 4 における各支持体 4 0, 4 0 の第 1 支持杆部 4 0 A に対する規制部材 5 2 の係合が解除された状態となる。

30

【0019】

前述した操作ペダル 5 4 は、支持台 3 2 の後部において幅方向へ延在するよう配設された回動支軸 7 0 の両端に取着されており、この回動支軸 7 0 に設けた第 1 係止片 7 2 が前述したスライド部材 6 2 に連設された係止片部 6 6 に設けた係止孔 6 8 へ係合していることで、これら回動支軸 7 0、スライド部材 6 2 および作動部材 5 8, 5 8 を介して前述した各規制部材 5 2, 5 2 に連繋している。そして、前述したスプリング 6 4 の引張り付勢力により、スライド部材 6 2 が第 1 停止位置に停止している際には、図 7 (a), (b) に例示したように、各々の操作ペダル 5 4, 5 4 は略起立姿勢に保持されている。従って、左右何れかの操作ペダル 5 4 を足等で上方から押圧すると、図 8 (a), (b) に例示したように、回動支軸 7 0 が図の時計方向へ回動すると共に、これに連動してスライド部材 6 2 が第 2 停止位置へ変位するようになるため、前述したように各作動部材 5 8, 5 8 が相互に近接するようスライド移動して、支持部材 3 4 に対する規制部材 5 2, 5 2 の係合が解除されるようになる。

40

【0020】

前述した操作レバー 5 6 は、支持台 3 2 の前部において該支持台 3 2 の設置部 3 7 へ回動可能に取付けられており、この操作レバー 5 6 に連繋された長尺の連結杆 8 0 に設けた

50

係止孔 8 2 へ前述した回動支軸 7 0 に設けた第 2 係止片 7 4 が係合していることで、これら連結杆 8 0、回動支軸 7 0、スライド部材 6 2 および作動部材 5 8、5 8 を介して前述した各規制部材 5 2、5 2 に連繋している。そして、前述したスプリング 6 4 の引張り付勢力により、スライド部材 6 2 が第 1 停止位置に停止している際には、図 7 (a),(b) に例示したように、操作レバー 5 6 は指先掛止部 5 7 が略水平となった姿勢に保持されている。従って、操作レバー 5 6 の指先掛止部 5 7 を指先等で上方へ引き上げると、図 1 1 (a),(b) に例示するように、連結杆 8 0 が移動して回動支軸 7 0 が図の時計方向へ回転すると共に、これに連動してスライド部材 6 2 が第 2 停止位置へ変位するようになるため、前述したように各作動部材 5 8、5 8 が相互に近接するようスライド移動して、支持部材 3 4 に対する規制部材 5 2、5 2 の係合が解除されるようになる。

10

【0021】

なお本実施例に例示の構造では、操作レバー 5 6 を指先等で操作した場合には、各操作ペダル 5 4、5 4 も連動して揺動するようになっている(回動支軸 7 0 が回動するため)。また、操作レバー 5 6 と連結杆 8 0 とは一方向にのみ係止されるようになっており、操作ペダル 5 4 を足等で操作した場合には、該操作レバー 5 6 は揺動しないようになっている。但し、ロック機構 5 0 の構造を変更することで、操作レバー 5 6 と操作ペダル 5 4、5 4 とを、連動するようにしたり或いは非連動とすることも可能である。

【0022】

(実施例の作用)

次に、前述のように構成された本実施例のコンソールボックスの作用について説明する。

20

【0023】

本実施例のコンソールボックス 1 0 は、図 1 (a)、図 2 および図 4 に例示したように、通常の使用時には、支持台 3 2 の載置部 3 6、3 6 に載置された第 1 位置に保持させ、前述したロック機構 5 0 の規制部材 5 2、5 2 によりスウィング変位が規制された状態で実施に供される。この場合には、前部座席 F S 1、F S 2 の間のフロア F L 1 に位置しているため、これら前部座席 F S 1、F S 2 に着座した乗員が好適に使用し得る。すなわち、コンソールリッド 1 6 を開閉することで、内部に画成された収容部 1 4 A に対する身辺の小間物等の出し入れをすることができる一方、このコンソールリッド 1 6 に設けたアームレスト 2 8 も好適に使用することができる。

30

【0024】

後部座席 R S の乗員が前部座席 F S 1、F S 2 へ移動する必要がある場合には、先ず図 8 (a),(b) に例示したように、左右何れかの操作ペダル 5 4 を足で踏んで支持部材 3 4 に対する規制部材 5 2、5 2 の係合を解除させたもとで、前述した取手部 2 2 を利用してコンソールボックス 1 0 を全体的に引き上げる。これによりコンソールボックス 1 0 は、図 3 および図 9 (a),(b) に例示するように、回動が許容された支持部材 3 4 の回動変位に伴って後部座席 R S の側へスウィング変位するようになる。更に、後部座席 R S の座面上近くまで変位したコンソールボックス 1 0 を更に後方側へ引張ることで、該コンソールボックス 1 0 は後方へスライド移動するようになり、該後部座席 R S の座面上に載置されて第 2 位置で停止するに至る。これにより、前部座席 F S 1、F S 2 の間のフロア F L 1 および後部座席 R S 前のフロア F L 2 が連通状態となり、後部座席 R S の乗員が前部座席 F S 1、F S 2 へ移動可能となる。なお、コンソールボックス 1 0 の移動完了後に操作ペダル 5 4 から足を離すと、図 1 0 (a),(b) に例示するように、該操作ペダル 5 4 は元の状態に回動復帰すると共に、支持部材 3 4 に対して規制部材 5 2 が係合した状態となり、該コンソールボックス 1 0 は第 2 位置に固定保持される。

40

【0025】

一方、前部座席 F S 1、F S 2 の乗員が後部座席 R S へ移動する必要がある場合には、先ず図 1 1 (a),(b) に例示するように、操作レバー 5 6 を片方の手で上方へ引き上げて支持部材 3 4 に対する規制部材 5 2、5 2 の係合を解除させたもとで、前述した取手部 2 0 を利用してコンソールボックス 1 0 を全体的に引き上げる。これによりコンソールボ

50

ックス10は、図3および図9(a),(b)に例示したように、回動が許容された支持部材34の回動変位に伴って後部座席RSの側ヘスウィング変位するようになる。更に、後部座席RSの座面上近くまで変位したコンソールボックス10を更に後方側へ押すことで、該コンソールボックス10は後方ヘスライド移動するようになり、該後部座席RSの座面上に載置されて第2位置で停止するに至る。これにより、前部座席FS1,FS2の間のフロアFL1および後部座席RSのフロアFL2が連通状態となり、前部座席FS1,FS2の乗員が後部座席RSヘ移動可能となる。なお、コンソールボックス10の移動完了後に操作レバー56から手を離すと、該操作レバー56は元の状態に回動復帰すると共に、支持部材34に対して規制部材52が係合した状態となり、該コンソールボックス10は第2位置に固定保持される。

10

【0026】

そして本実施例のコンソールボックス10は、前述した支持台32を設けたことによりコンソール本体12の高さ寸法が小さく設定されているため、図3から明らかなように、第1位置での高さレベルと第2位置での高さレベルに大きな差が生じないようになっている。従って、第2位置に固定保持されている場合には、横長の後部座席RSにおける座面の左右中央に位置しているため、この後部座席RSの両側に着座した何れの乗員も好適に使用し得る。すなわち後部座席RSの乗員は、コンソールリッド16を開閉することで、内部に画成された収容部14Aに対する身辺の小間物等の出し入れをすることができる一方、このコンソールリッド16に設けたアームレスト28も好適に使用することができる。

20

【0027】

後部座席RSの乗員が第2位置に固定保持されているコンソールボックス10を第1位置ヘ移動させる場合は、先ず取手部20を利用してコンソールボックス10を前側ヘ引張って移動させる。次いで、操作ペダル54を足で踏んで支持部材34に対する各規制部材52,52の係合を解除し、このもとで取手部22を利用してコンソールボックス10を更に前側ヘ移動させる。これによりコンソールボックス10は、回動が許容された支持部材34の回動変位に伴って前部座席FS1,FS2の間ヘスウィング変位して、支持台32の載置面36Aに載置された第1位置ヘ変位するようになる。そして、コンソールボックス10が支持台32に載置されたら、操作ペダル54から足を離すことで該操作ペダル54は元の状態に回動復帰すると共に、支持部材34に対して各規制部材52,52が係

30

【0028】

また、前部座席FS1,FS2の乗員が第2位置に固定保持されているコンソールボックス10を第1位置ヘ移動させる場合は、先ず取手部20を利用して一方の手でコンソールボックス10を手前側ヘ引張って移動させる。次いで、操作レバー56を他方の手で上方ヘ引き上げて支持部材34に対する各規制部材52,52の係合を解除し、このもとでコンソールボックス10を更に手前側ヘ引張る。これによりコンソールボックス10は、回動が許容された支持部材34の回動変位に伴って前部座席FS1,FS2の間ヘスウィング変位して、支持台32の載置面36Aに載置された第1位置ヘ変位するようになる。そして、コンソールボックス10が支持台32に載置されたら、操作レバー56から手を

40

【0029】

このように本実施例のコンソールボックス10では、後部座席RSの乗員がコンソールボックス10を第2位置ヘ移動させ得ることは勿論、前部座席FS1,FS2の乗員がコンソールボックス10を第2位置に移動させることも可能であるから、後部座席RSの乗員が前部座席FS1,FS2ヘウォークスルーしたり、前部座席FS1,FS2の乗員が後部座席RSヘウォークスルーすることが可能となる。また、第2位置ヘ固定保持されたコンソールボックス10は、後部座席RSの座面の左右中央に位置するため、この後部座席

50

R S の左右両側に着座した乗員が好適に使用可能である。しかも、コンソール本体 1 2 の高さ寸法が小さく設定されているため、後部座席 R S の乗員がコンソールリッド 1 6 に設けたアームレスト 2 8 を好適に使用することができる。

【0030】

また本実施例のコンソールボックス 1 0 は、第 1 位置および第 2 位置の何れに位置していてもロック機構 5 0 により好適な固定保持が図られるため、第 1 位置に保持されているコンソールボックス 1 0 が急発進により後部座席 R S 側へ移動することが防止される一方、第 2 位置に保持されている該コンソールボックス 1 0 が急ブレーキにより前部座席 F S 1 , F S 2 側へ移動することも防止される。

【0031】

そして本実施例のコンソールボックス 1 0 は、後部座席 R S の構造を変更する必要がないため、この後部座席 R S の構造変更に伴うコストアップを招来することはない。更に、後部座席 R S の両側に乗員が着座していたとしても、コンソールボックス 1 0 を第 2 位置へスウィング変位させ得るため、乗員の有無によってコンソールボックス 1 0 の移動が規制されることはない。更にまた、コンソールボックス 1 0 を第 2 位置へ変位させたとしても、前部座席 F S 1 , F S 2 のリクライニング機能を阻害することはない。

【0032】

(変更例)

図 1 2 は、変更例に係るコンソールボックス 1 0 の使用状態を例示した概略斜視図であって、(a)は前部座席間のフロアに設置した第 1 位置での使用状態を示し、(b)は左右に離間して設置された後部座席の間のフロア上に保持した第 2 位置での使用状態を示している。すなわちこの変更例では、キャプテンタイプの後部座席 R S 1 , R S 2 を装備した乗用車に実施した場合を例示し、これら後部座席 R S 1 , R S 2 の間のフロア F L 3 上が第 2 位置に設定されている。この変更例においても、コンソールボックス 1 0 は前述した実施例と同一の構成であり、ボックス支持機構 3 0 やロック機構 5 0 等も基本的には同一に構成されている。但し、ボックス支持機構 3 0 における支持部材 3 4 の回動(スウィング)角度が、前述した実施例よりも大きい 9 0 度以上に設定されており、支持部材 3 4 が完全に回動した際には、コンソール本体 1 2 の下縁がフロア F L 3 に接触するようになる。但し、支持部材 3 4 の支持強度が充分である場合には、フロア F L 3 から適宜浮上した位置において固定保持させるようにしてもよい。

【0033】

このような変更例に係るコンソールボックス 1 0 においても、前述した実施例のコンソールボックス 1 0 と同等の作用効果が得られる。すなわち、後部座席 R S 1 , R S 2 の乗員がコンソールボックス 1 0 を第 2 位置へ移動させ得ることは勿論、前部座席 F S 1 , F S 2 の乗員がコンソールボックス 1 0 を第 2 位置に移動させることも可能であるから、後部座席 R S 1 , R S 2 の乗員が前部座席 F S 1 , F S 2 へウォークスルーしたり、前部座席 F S 1 , F S 2 の乗員が後部座席 R S 1 , R S 2 へウォークスルーすることも可能となる。また第 2 位置へ固定保持されたコンソールボックス 1 0 は、後部座席 R S 1 , R S 2 の間に位置するため、これら後部座席 R S 1 , R S 2 の夫々に着座した乗員が好適に使用可能である。しかも、後部座席 R S の乗員がコンソールリッド 1 6 に設けたアームレスト 2 8 を使用することもできる。またコンソールボックス 1 0 は、第 1 位置および第 2 位置の何れに位置していてもロック機構 5 0 により好適な固定保持が図られるため、当該乗用車の急発進や急ブレーキに際して移動することが防止される。

【0034】

なお前述した実施例のコンソールボックス 1 0 では、支持部材 3 4 に対して回動変位およびスライド変位が可能な場合を例示したが、後部座席 R S の設置位置、支持部材 3 4 の形状・サイズ等の設定により、スライド移動しないように構成することもできる。

【0035】

また、ボックス支持構造 3 0 を構成する支持台 3 4 や支持部材 3 4 の形状・形態、操作ペダル 5 4 や操作レバー 5 6 の操作により規制部材 5 2 を移動させるロック機構 5 0 の構

10

20

30

40

50

成等は、前述した実施例のものに限定されるものではなく、同様の作用効果が得られる構成であれば適宜に変更し得る。

【産業上の利用可能性】

【0036】

本発明に係るコンソールボックスは、前部座席および後部座席を有する車両の乗員室内において、常には前部座席の間のフロアに設置されるコンソールボックスであって、前部座席側と後部座席側との間を変位可能としたもので、コンソールボックスを有する全ての自動車に好適に実施可能である。

【図面の簡単な説明】

【0037】

【図1】好適実施例に係るコンソールボックスの各使用状態を例示した説明斜視図であって、(a)は前部座席間のフロアに設置した第1位置での使用状態を示し、(b)は後部座席の座面上に保持した第2位置での使用状態を示している。

【図2】前部座席間のフロアに設置した第1位置での使用状態で示したコンソールボックスの概略断面図である。

【図3】後部座席の座面上に保持した第2位置での使用状態で示したコンソールボックスの概略断面図である。

【図4】(a)は、本実施例のコンソールボックスの外観を概略的に示した平面図であり、(b)は、該コンソールボックスの側面図である。

【図5】図4(b)のV-V線断面図である。

【図6】図4(b)のVI-VI線断面図である。

【図7】(a)は、ロック機構の構成を非操作状態で示した説明図であり、(b)は、(a)のVII-VII線断面図である。

【図8】(a)は、操作ペダルを踏むことで支持部材に対する規制部材の係合を解除させた状態を示した説明図であり、(b)は、(a)のVIII-VIII線断面図である。

【図9】(a)は、支持部材の回動によりコンソールボックスを第1位置から第2位置へスウィング変位させた状態を示した説明図であり、(b)は、(a)のIX-IX線断面図である。

【図10】(a)は、操作ペダルの踏込みを解除することで支持部材に対して規制部材に係合させた状態を示した説明図であり、(b)は、(a)のX-X線断面図である。

【図11】(a)は、操作レバーを引き上げることで支持部材に対する規制部材の係合を解除させた状態を示した説明図であり、(b)は、(a)のXI-XI線断面図である。

【図12】変更例に係るコンソールボックスの各使用状態を例示した説明斜視図であって、(a)は前部座席間のフロアに設置した第1位置での使用状態を示し、(b)は後部座席の間のフロア上に保持した第2位置での使用状態を示している。

【符号の説明】

【0038】

- 10 コンソールボックス
- 16 コンソールリッド
- 28 アームレスト
- 30 ボックス支持機構
- 32 支持台
- 34 支持部材
- 50 ロック機構
- 52 規制部材
- 54 操作ペダル(操作部材)
- 56 操作レバー(操作部材)
- FL1, FL3 フロア
- FS1, FS2 前部座席
- RS/RS1, RS2 後部座席

10

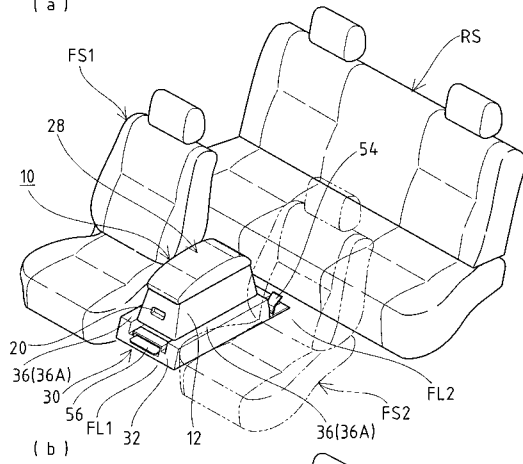
20

30

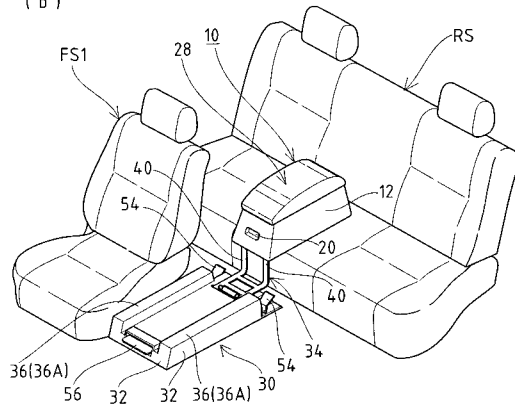
40

【図 1】

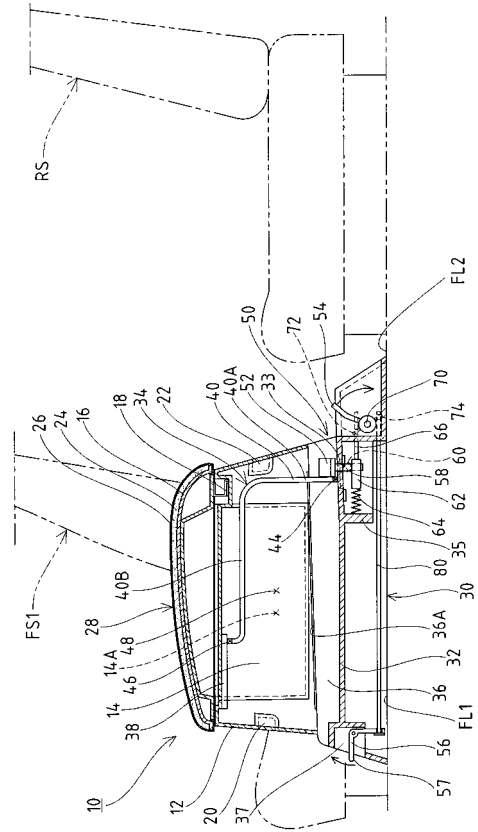
(a)



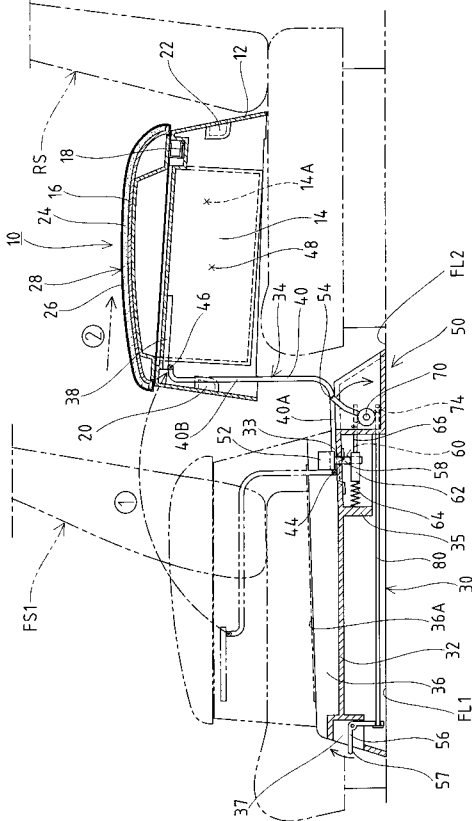
(b)



【図 2】

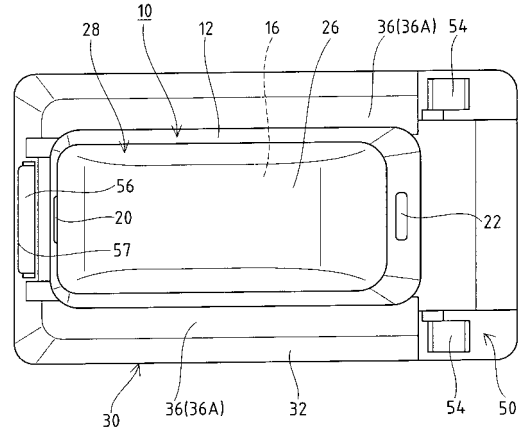


【図 3】

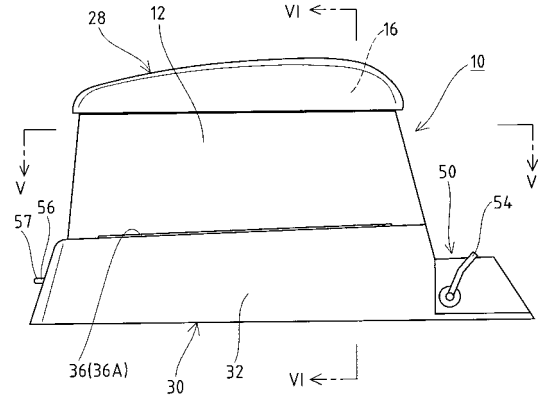


【図 4】

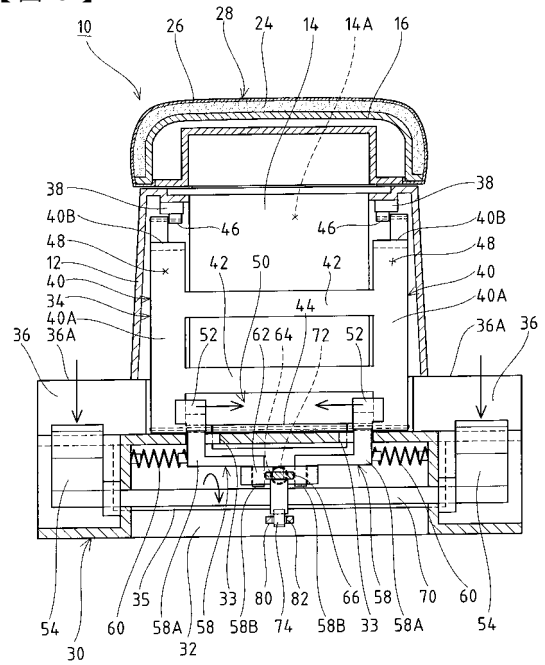
(a)



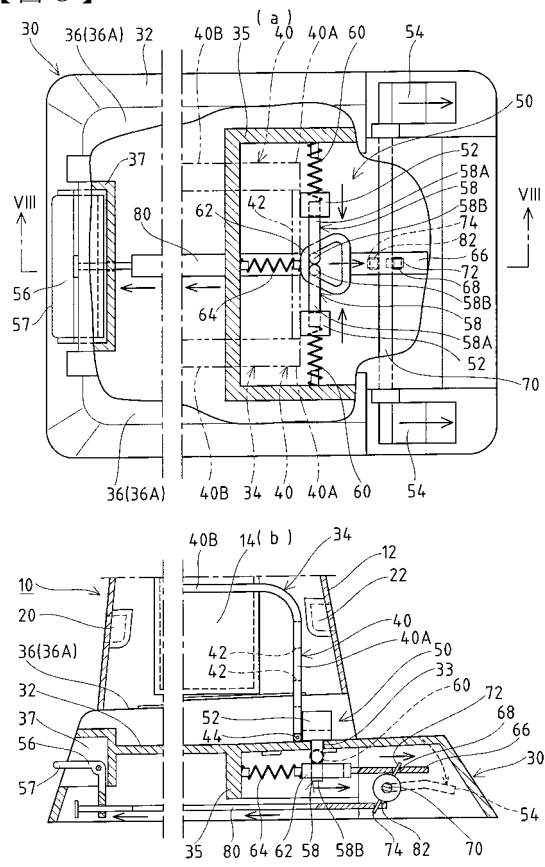
(b)



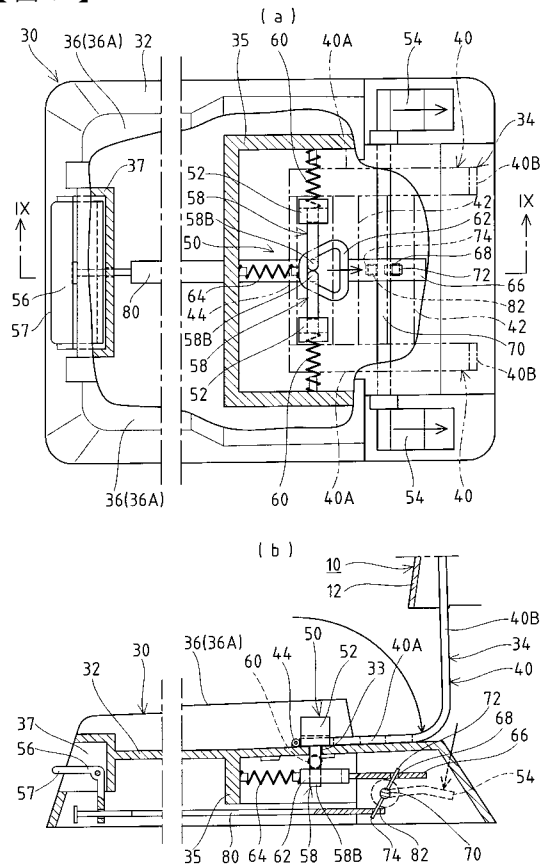
【 図 6 】



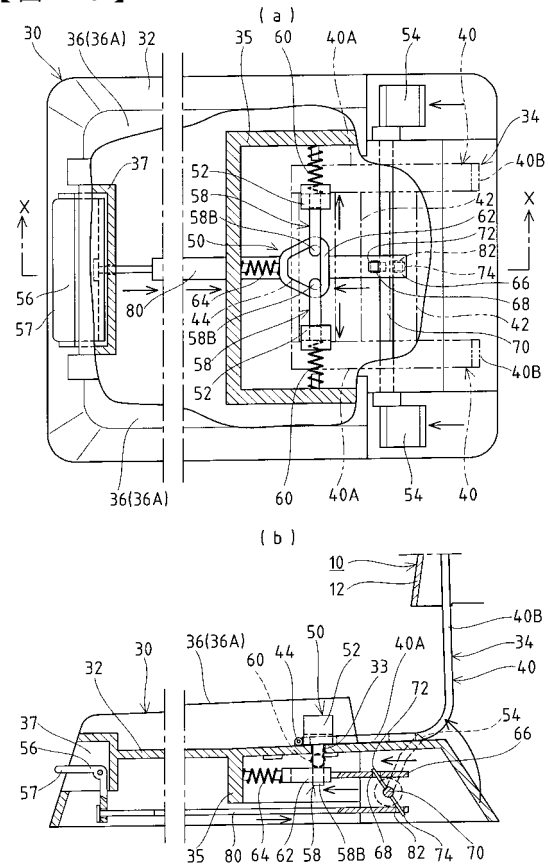
【图 8】



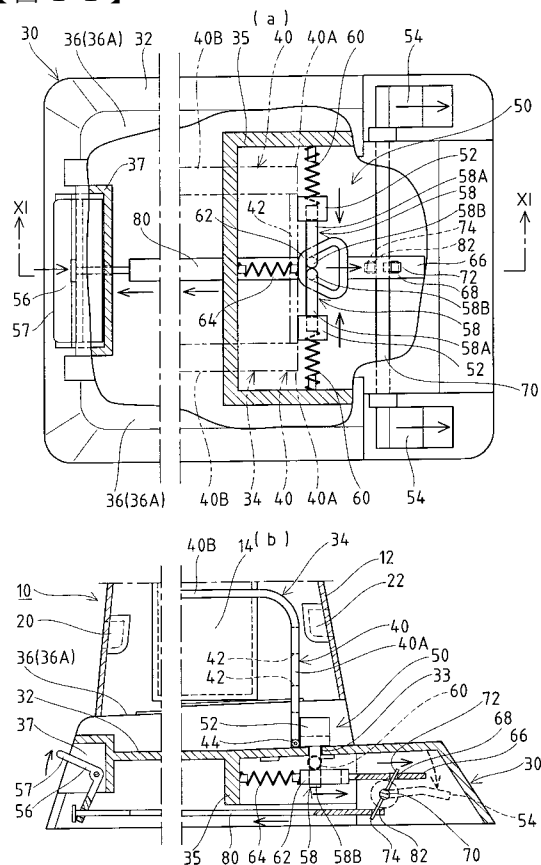
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

